

栃木県の幼児教育と小学校教育をつなぐジョイントカリキュラム

つなげよう!

とちぎのこどもの まなび



令和5（2023）年度幼小接続推進者研修まとめ

この資料は

- ❖ テーマを視点に、子どもの姿から教育内容・方法を想定した、幼小接続期の指導計画です。
- ❖ 入学を境にした時期に、子どもの学びや育ちがどのようにつながっていくのかを、共通のテーマから捉え、まとめました。
- ❖ 幼児期後期から小学校入学当初にかけて大切にしたいことを、「大切にしたい子どもの姿」「育ちにつながる活動の例」「保育者・教師の指導のポイント」の3つの視点で示しました。
- ❖ 各園・各校でアプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを見直す際の参考にしてください。
- ❖ 市町教育委員会や自治体等における幼小接続事業や、架け橋期の教育の充実の取組の際に御活用ください。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 遊びの中で自分の考えを伝えたり、相手の言葉に耳を傾けたりする。
- 自分が経験したことを友達や保育者に自分の言葉で伝える。
- 遊びの中で、友達とルールを考えたり、共有したりしながら共通の思いやルールをもって遊ぶことを楽しんでいる。
- 疑問に思ったことを友達と一緒に調べたり、試したりしながら友達と様々な発見をすることを楽しむ。

- クラス活動やグループ活動の中で、共通の目的をもち、意見を出し合いながら探究を深めていく。
- 友達の思いを受け入れたり、自分の思いを伝えたりし、思いを通じ合わせながら遊びや生活を展開していく。
- 互いに様々な思いや考えがあることを知り、友達のよさを認め合いながら共通の目的に向かって友達と協力しながら取り組んでいる。

- 小学校で、初めて会う友達や上級生や先生に、不安と期待が入り混じっている気持ちをもちながらも、自分の身の回りのことを話したり、相手の話を聞いたりして、お互いのことを理解しようとしている。
- 学校生活のきまりや各教科の学習活動に慣れるために必要な時間が、児童の個性によって一人一人違う中で、それぞれがめあてを達成しようとしている。

- 生活や学習について見通しをもち、友達とよりよい学校生活を送ろうと行動している。
- 友達や先生と思いを伝え合うことで、自分の活動の幅が広がることに気付いている。
- 学校生活では、それぞれの活動に対して自分の得意・不得意があることに気付いたり、友達と協力して課題に取り組む楽しさを味わったりして、取り組んでいる。

自覚的な学び

目指す姿：互いに思いを認め合い、友達と協力してやり遂げようとする子ども

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



世界地図を使って様々な国について調べる。



友達とドッジボールの作戦を考える。



役割分担をしながら、ステンドグラス製作をする。



1年間の遊びを振り返り思いを共有し合う。



学校探検では、友達と話し合いながら活動する。



公園での遊びの中で、地域のよさを見付ける。

児童期・一年生前半



アサガオの花から、よりきれいな色水を作る。



自分の考えを話し、友達の考えを聞くペア学習。

保育者・教師の指導のポイント

- 朝の会等の時間に相手に自分の考えを受け入れてもらったり、共有したりすることの満足感を味わえるようにする。
- 友達と一緒に遊ぶことの充実感を味わえるように、保育者も遊びに加わり集団遊びの楽しさを共有していく。
- 子どもの「やってみたい」という思いや、興味をもったことに対し探究を深めていく姿を大切に、遊びが深まるような環境の構成をする。
- 興味・関心があることに対し、じっくりと考えたり、試したりする時間を十分に確保していくとともに、その中で新たな発見を共有することで、友達に伝えたいという思いが高まるようにしていく。

- グループの中で共通の目的をもって活動する機会を設け、目的に向かって友達と意見を出し合ったり、考えたりすることの充実感や達成感を味わえるようにする。
- 友達と一緒に活動する中で、友達と活動することの楽しさや自信が高まったと感じられるように、子ども同士が十分に関わり合える時間を設けていくようにする。
- 遊びの中で、一人一人に様々な思いや考えがあることに気付いたり、相手の思いを受け止めたりする姿を認め、子ども同士の関わりの広がりやふくらみを大切に、見守りながら主体性を尊重していく。

- 学校全体でスタートカリキュラムを共通理解し、児童が安心して学校生活を送れるようにする。
- 一人一人に応じた思いの伝え方を支援したり、友達と楽しく活動できる場をより多く設けたりして、児童理解に努める。
- 言語活動、学習形態、教具の工夫をし、意欲的に学ぶ授業の展開や落ち着いた生活できる学級経営に努め、児童が、自分の思いを伸び伸びと表現し伝えることができるようにする。

- 児童が学級の中で、自分や友達の個性を理解し、自分や友達のよさを伝え合う時間を設け、自己肯定感を高められるようにする。
- 休み時間や当番活動、係活動で、児童が周り支え合って活動するよさが理解できるような言葉掛けを意識的に行い、児童同士がさらに楽しく関わり合えるようにする。
- 児童が、行事、休み時間や学習活動などの学校生活全般で、友達と主体的に学ぶことができるように、活動展開を工夫する。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 歌や踊りなど、様々な活動に取り組む中で、友達とイメージを共有し、表現を楽しんでいる。
- 運動会や発表会などの行事を通し、みんなでひとつのことを成し遂げる充実感や達成感を味わい、自信へとつなげている。
- 生活や遊びの中で、友達との関わりを深め、親しみや信頼感を高めている。

- 数や文字、様々な材料、用具を使い試したり工夫したり、自分の思いののびのび表現しようとしている。
- 子ども同士で問題解決をし、意見を出し合って遊びを展開して、楽しんでいる。
- 仲間意識をもち、様々な行事に参加し、やり遂げようとする。

- 新たな友達と関わり、他者への意識をもち楽しく学校生活を送っている。
- めあてを意識して学習に取り組み、できるようになった充実感や達成感を味わい、自信をもっている。
- 自分の思いや考えをもち表現したり、友達の考えを聞いたりしながら考えの違いに気付いている。
- 学習や生活における伝え合う活動の中で、伝え合う楽しさや伝わる嬉しさを感じている。

- 互いの良さを認め合い、自己肯定感を高めている。
- 自分の表現したいことを、自分に合った方法で表現している。
- 課題に向かって、自分で考えたり友達と試行錯誤したりしながら、意欲的に取り組んでいる。
- 自分の考えに自信をもち、多人数の前で自己表現ができるようになってくる。

自覚的な学び

目指す姿…自分なりの表現を楽しみ、互いの思いを認め合って取り組む子ども

幼児期・年長後半

児童期・一年生前半

活動の例



友達と協力しながら水路やトンネルを作る



年中児にこおり鬼の説明をしている



劇の振り付けを自分たちで考えている



設計図を基にロボットを作っている



2年生に案内してもらい、学校と友達を知る



折り紙を並べて、協力して夢の家を作る



雨の校庭を探検し、音の違いを探している



自分たちで曲の伴奏を考え、演奏する

保育者・教師の指導のポイント

- 子ども同士の話し合いで、互いの思いや考えが伝わりにくい場合はまとめることを手伝う等、互いの考えが理解できるよう仲立ちする。
- 友達と一つのことに取り組んでいく中で、一人一人の発想や気持ちに寄り添い、のびのびと自信をもち表現できるようにする。
- 友達の良いところを探しながら、気持ちの良い言葉をかけあい共に過ごす楽しさを感じられるようにする。
- 友達と一緒にやり遂げる達成感や喜びを共有する機会をつくり、仲間意識を高めていけるようにする。

- 子どもたちがイメージしたことを形にできるよう、満足するまで取り組める環境を整えていく。
- 自分たちで伝え合ったり確認し合ったりする姿を見守り、必要に応じて子どもたちの話し合いに保育者も加わるようにする。
- 一つ一つの行事について、その意味を丁寧に知らせていき、自分なりに理解し、主体的に参加できるようにする。
- 子どもたち一人一人の意見や考えを肯定的に受け止め、自信をもって自己の力を発揮できるようにする。
- 自分らしさを大切に、就学に期待感をもちながら、充実した生活を送れるようにする。

- 新しい友達と意欲的に関わり、楽しく過ごすことができるように支援する。
- 意図的にいろいろなグループを編成して活動を行い、友達関係を広げるために指導・支援する。
- 学級全体として「まちがってもいいんだよ」という受容的な雰囲気づくりを行う。失敗しても大丈夫だと安心して自分の思いや考えを表現することができるようにする。
- 伝え合う楽しさや表現する楽しさを感じることで活動を用意的に設定し、伝わる楽しさや伝わったときの満足感や達成感を自信につなげられるようにする。
- 語彙力の育成を図るとともに、自分の思いや考えをうまく表現できない子には、担任が思考の言語化の手助けを行い、思いや考えをつなげるようにする。

- 表現する活動を意図的に取り入れると共に、表現する方法（絵や言葉、動き、文字など）を伝え、自分に合った表現方法を見つけさせる。
- 活動の目的や学習のめあてを分かりやすく伝えて活動に取り組みさせて、できるようになったことや成長した自分に気付かせる。
- 児童の実態に合わせて活動を設定し、成功体験を積むことで自信をもって活動できるようにする。
- 自分と友達の考えを比較し、互いの考えを大切にするとともに共通点や相違点に気付くことができるようにする。
- 自分と相手の違いを理解し、自分も相手も大切にしようとする気持ちを育てていく。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- トラブルを経験しながら、相手の気持ちを受け入れ、折り合いをつけられるようになってくる。
- 遊びの中でルールや順番、きまりを守り、楽しく遊ぶための方法がわかるようになる。
- 主体的にかかわる遊びの中で試したり、工夫したり、失敗しながら自分の力で最後までやり遂げようとする。

- 互いのよさを生かしながら思いや考えを話し合い、目的に向かって協力し合おうとする。
- 行事の準備や活動を通し、日常生活に必要な文字・数・記号などに興味や関心を持ち、友達に思いを伝えることを喜ぶ。
- 活動の場を整えながら、見通しをもって行動できるようになる。

- 学校生活に慣れ、決まりや日課を守って生活しようとしている。
- やっぴよいことと、よくないことを考えたり、友達と話し合ったりできる。
- やらなければいけない課題や活動に自分なりに工夫して取り組むことができる。
- みんなで楽しく生活するために、よい行いを進んでやろうとしている。

- 自分の意見を言葉で友達に伝えようとするができる。
- グループ活動を通して、共通の目的に向かって話し合ったり、準備したりすることができるようになってくる。
- 友達のよさに気付くことができる。
- 「ありがとう。」「ごめんなさい。」と素直に言い合える関係性ができてくる。

自覚的な学び

目指す姿：自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりとすることができる。

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



縄跳び



長縄跳び



教え合う活動



何ができるか考える活動



自己紹介



発見したものを伝える活動



何ができるか考える活動



説明する活動

児童期・一年生前半

保育者・教師の指導のポイント

- 思いや考えを言葉にすることが苦手な子には、寄り添いながら話を受け止め、他の子に知らせ共感する。耳を傾けることが苦手な子には、自分と違った考えがあることに気付くようにする。
- ルールを守ると友達との遊びが楽しくなることを実感できるようにし、継続した遊びになるようにする。
- 自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け入れたりと、試行錯誤しながら協力して取り組む姿を見守る。
- 十分に遊べる広い場所、時間を確保し、子どもたちが考えたことを楽しめるためのアイディアを提示する。

- 自分の思いが伝わることで活動がより楽しくなるようにし、人の話は静かに聞くことを繰り返し知らせ、正しく聞き取る力を身に付けるようにする。
- 友達と製作や表現を楽しめるような活動を通し実際になりきりながら、コミュニケーション能力を身に付け、充実感や満足感を味わえるようにする。
- お正月遊び（カルタ、すごろく、トランプ）行事（お店屋さんごっこ）で文字や数、商品の説明等、言葉の学びを楽しめるようにする。
- 小学校生活への移行を意識させ、失敗しながらも立ち直る体験、成功体験を共感する。

- 話を的確に聞くことができるように、問い返したり、話の内容をみんなで確認したりする。
- 話を聞くときは、相手の目を見て心を寄せて聞くと、よく理解できたり、話している人が嬉しかったりすることを繰り返し伝える。（目と耳と心で聞く指導）
- ペアやグループ活動の時間を多く設け、自分の考えを発表する機会を与える。また、伝え合うことの楽しさを知る。
- 児童が主体的に動けるよう、環境を整える。（掲示物や道具）
- 自分の思いを表現できるよう、様々な表現方法を認めるようにする。

- 一人で考える時間を十分確保する。（紙やホワイトボード等）同時に、他の人が納得できるような理由もあるとよいことを伝える。
- 安心して伝えることができるような場を作る。
- ペアやグループ活動時の約束事の徹底をする。
 - ・自分の意見を必ず伝える。
 - ・友達の意見を否定しない。
 - ・うなずいたり、笑顔で聞いたりする。
 - ・質問をする。
- 話し合いがなかなかまとまらないときには、目的達成のためによりよい方法や答えが見つかるように児童に促す。
- 協力してできた達成感や充実感を味わうことができるように、成功体験をさせる。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 運動会や発表会に向けて友達と一緒に考えを出し合いながら共通の目的をもち、工夫したり協力したりして充実感をもつ。
- 異年齢交流を通して思いやりや譲り合いの心を育てる。
- 自分の思いを伝えたり友達の考えを受け入れたりして、試行錯誤しながら遊びを工夫して楽しむ。

- 就学に向けて期待と自覚をもち、見通しをもって生活する。
- 卒園に向け園生活を振り返る中で、お世話になった人に感謝の気持ちをもち、様々な形で表現する。
- ドッジボール大会では、意見を出し合いながら練習に取り組み、達成感を味わう。
- ゆうびんやさんごっこやカルタなどの正月遊びを通して、文字や数字に興味をもったり、友だちと一緒にルールを作ったり競い合ったりしながら楽しむ。

- 教師の話の聞いたり各活動に取り組んだりする中で、自分の意見や感想をもつことができる。
- 簡単な言葉で、積極的に自分の思いや考えを伝えようとする。
- 小グループの中で、相談しながら活動する。
- 学級のルールや決定を守る。
- 学校や学級に愛着や仲間意識をもつことができる。

- 根拠を示しながら自分の意見を伝えることができる。
- 友達のことを聞き、共感したり、意見を返したりする。
- 各授業のめあてや振り返りを通して、学びを深めることができる。
- 学校行事等を通して、自らの力を高めていこうとする意欲をもったり、達成感を味わったりする。
- より良い学校生活を送るための工夫を進んで考えることができる。

自覚的な学び

目指す姿：思いや考えを伝え合い、工夫しながら、意欲的に取り組める子ども

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



行事は友達とイメージを共有し合う。



異年齢保育は、思いやりの気持ちを大切にします。



友達と意見を出し合い協力して取り組む。



お世話になった人に感謝を伝える方法を考える。



学校探検で話し合いながら行先を決める。



縦割り班でテーマに沿って話し合う。



各活動の振り返りを次時につなげる。



定期的な振り返りながら係活動に取り組む。

児童期・一年生前半

保育者・教師の指導のポイント

- 行事での頑張りを十分に認め、達成感や満足感を得られるようにする。またやり遂げられたことを自信につなげる。
- 友達と相談したり、協力したりして遊びや活動を進めていくことを楽しめるように働きかけていく。
- 様々な意見を出す中で、互いの考えが生かされるよう配慮し、喜びや自信につなげる。また意見が違ったときは、互いの意見を伝え合い、解決しようとする。
- 異年齢保育では、具体的な関わり方を伝え、思いやりやいたわりの気持ちをもてるようにする。

- 就学への期待がふくらみ、集団生活に必要な決まりを守り、時間の見通しをもてるようにする。
- 一人一人の意見や存在を認め、集団としてのまとまりを作り、みんなが相手を思いやれるようにする。
- お別れ会では、感謝の気持ちを表すことの大切さを伝え、意欲的に参加できるようにする。
- 郵便屋さんごっこでは、手紙のやりとりを通して、言葉や表現を身に着け、言葉による伝え合いを楽しめるようにする。
- 一人の行動が、自分だけではなく、みんなのためになることを伝えていくことで、協力して生活を進めることができるようにしていく。

- 安心感をもって自分の言葉で話すことができる場を設ける。
- 読み聞かせや「言葉の葉指導」により、語彙力を高める。
- ペアやグループで活動する場を設け、共同することの楽しさを味わわせ、友達と認め合う関係を構築できるようにする。
- 係活動や学級活動では、平等に協力しながら学校生活が進むように支援する。
- 縦割り班活動や、清掃活動を通して、上級生を見習いながら、簡単な学校運営について参加したり考えたりする場を設ける。
- 行事を行う際は、めあて・振り返りシートを活用して、目的意識をもって、最後まで粘り強く活動に取り組めるようにする。

- 一人一人の興味関心や、学習の内容に合わせて、本や教材を収集し、工夫しながら主体的に活動できるように環境を整える。
- 友達の考えを聞くときは、静かに、寛容な雰囲気の中で聞くことができるように、聞き方や、意見の返し方を指導する。
- 授業の始まりには、学習課題を自分事として捉えられるように、導入を工夫しながらめあてを提示する。また、振り返りを行うことで、学びの自覚を促したり、次時につながる課題を見つけさせたりする。
- 創意工夫するための時間を、授業の中で確保できるように、指導計画を工夫する。
- 行事を行う際は、めあて・振り返りシートを活用して、目的意識をもって、最後まで粘り強く活動に取り組めるようにする。
- 児童の思いを汲み取りながら、学級活動を行う。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 仲間と一緒に遊びを進めていくことが楽しくて、互いにアイデアを出し合って遊んでいる。
- 自分なりの考えをもって遊びが表現できるように、繰り返し作ったり試したりしている。
- クラスの友達と一緒に共通の目的に向かって、取り組めるようになる。

- 友達の思いやよさを受け入れたり、感動したことを伝え合ったりしながら、遊びを進めている。
- 目的に向かって自分の力に挑戦し、最後まで頑張ろうとする気持ちが見られてくる。
- 卒園に向けての様々な活動に意欲的に取り組み、決まりを守ったり見通しをもったりして生活する。

- 新しい友達や様々な先生と仲良くなり、楽しく安心して学校生活を送ろうとしている。
- 自己紹介をして、好きなことを伝え合い、新たな人間関係を築いている。
- 次の活動の準備をしたり、自分で出来ることは自分でしようとしたりする。
- 学習や生活の中で、自分の思いを友達に伝えている。

- 友達と声を掛け合いながら、次の活動の準備をする。
- 自分の得意なことを生かしながら、係活動に取り組む。
- 目的に向かって思いを伝え合い、よりよい活動にしていこうとする。
- 自分の思いを伝えたり、互いの思いを認め合ったりする。

自覚的な学び

目指す姿：共通の目的に向かって、互いに思いや考えを出し合っている

幼児期・年長後半



リレーのための、グループ分け



友達と協力して、どんぐり迷路に挑戦



試行錯誤しながら、コース作り



発表会に向けて...



行ってみたい場所への学校探検



2年生に教わりながらあさがおの種まき



試行錯誤しながら、シャボン玉作り



優勝を目指した校内ドッジボール大会

育ちにつながる活動の例

保育者・教師の指導のポイント

- 仲間と遊び始めている場面での援助や助言に配慮し、仲間との遊びがうまく進む楽しさを味わえるようにしていく。
- 自分たちの目的に向かって、いろいろ工夫しながら、進めていけるよう時間や場を十分考えていく。
- 遊びの中で友達のよさに気付くよう、個々の動きを捉えていき、互いに認め合う学級の雰囲気をつくっていく。

- 学級全体の活動を取り入れながら、みんなでやり遂げる喜びを味わえるようにしていく。
- 互いに認め合い、ルールや役割などをみんなで相談して決める姿を認め、励ます。
- 自然事象、文字、数などの幼児の興味や関心に沿って積極的に活動に取り入れながら、生活の広がりをもてるようにしていく。
- 「もうすぐ小学生」「幼稚園もあと少し」など期待と不安を受け止め、生活に意欲がもてるようにしていく。

- 安心して学校生活を送れるよう幼稚園等と同じような雰囲気づくりを心がける。
- 生活科の学校探検では、2年生と交流したり、進んで質問をしたりする場を設定する。
- 時間割に沿った1日の流れを掲示することで、進んで学習の準備ができるようにする。
- ペアやグループで活動する場面を取り入れ、自分の思いを伝える場を多くする。

- 1分前着席を奨励し、進んで学習に取り組む意欲を高める。
- 係の種類ややり方については児童の話合いで決めるようにし、主体的に活動できるよう支援する。
- 生活科では、めあてを達成するための方法を話し合い、色々な方法を試しながら、工夫して活動できるようにする。
- 行事の際には、クラスの目標を話し合ったり、一人一人のめあてを掲示したりする。
- ペアやグループ活動を通して、自分の思いを伝えたり、互いに認め合ったりする場をつくっていく。



大切にしたい子どもの姿

無自覚な学び

- 春から夏にかけて自分の遊びを十分に楽しんだ子どもたちは、共通の目標に向けて協力し、思いを伝え合いながら活動に取り組んでいる。
- 勝負の勝敗に左右されながらも、折り合いをつけ、次への期待や目標をもてるようになる。

- 繰り返し絵本の読み聞かせを楽しむ中で物語の登場人物になりきり表現する。
- 楽器を鳴らし、自分の音と周りの音を聴き、合わせる面白さ、心地よさに気付き取り組む。
- 活動の中で、製作や遊びなど一定時間集中し行う。

- 学校生活への興味を高め、何にでも挑戦したいという意欲をもっている。
- 課題（めあて）に対して、何のためにやるのか、どうやるのか見通しをもって、活動している。
- 自分の思いをもって活動し、振り返ることができる。
- 友達の考えや行動に関心をもち一緒に協力して当番活動をしている。

- 自分から課題を見つけている。
- 課題の解決に向けて、自分の考えだけでなく、友達の意見も聞いてよりよい方法を考えている。
- 友達と役割分担などをして、自分たちで計画している。
- 協力して行うことの達成感を味わっている。
- 計画や活動を振り返り、次の学習に生かそうとしている。

自覚的な学び

目指す姿… 共通の目的の実現に向けて、工夫したり、協力したりする子ども

幼児期・年長後半

育ちにつながる活動の例



「運動会」
バルーンをしっかりとぎる。



タイミングを合わせて技を披露。



「クリスマス会」
なりきって雰囲気づくり



小さい子たちに、踊りを
レクチャー



「学校探検」
自分たちだけの活動



「係活動」
計画・協力



「水遊び」
自分たちの目標に向かって、計画・役割分担・振り返り



保育者・教師の指導のポイント

- 完成形をイメージし、一つのことを協力し成し遂げようとする気持ちもてるよう、日々の保育の中で「小さな成功の共有」を繰り返し経験できるよう、時間と環境を用意し小集団での遊びを提供していく。
- 思いを伝えあう中で、自分の思いを表現するが受け入れられないことがあることや、意見が一致し思いを共有する喜びを感じられた瞬間を見逃さず、代弁していく。
- 協力することで、一人ではできなかったことが出来ることを知らせる。

- 行事や共通の目的に向かい子どもたちの思いや考えを言葉や動作で表現できるよう声掛けや促しを行う。一人ひとりが納得し意欲をもって活動できる場を用意する。
- 楽しい時間にはみんなで楽しみ、みんなの前でも恥ずかしながら表現する。代表で質問をする、自分たちよりも小さい子への配慮ができるなど、その場に合った行動ができることを促し、繰り返し積み重ねていく。集団であるからこそ感じられる方法を一緒に考える。

- 安心して過ごす環境作りとして、視覚的にやり方や手順を示したり、これまでの経験を生かすような活動の導入を工夫したりする。
- 目的を共有できるように全体でやり方やルールを確認したり、質問の時間をとったりする。
- 当番活動など頑張っている児童を全体で称賛する。
- ペアやグループ活動を取り入れ、友達の話に関心をもたせる。

- 児童の言葉を学級全体に広げ学びにつなげるようにする。
- グループ活動で児童同士で決定したり、行動したりして自立を促す。
- 振り返りで、友達のよかったところにも目を向けさせる。
- ペアやグループ活動を取り入れ、役割分担をし、自立・活躍の場をもたせる。

